

令和 2 年度 県立下館第一高等学校自己評価表

目指す学校像	【目指す学校像】 自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財を育成する学校 【育てたい生徒像】 広い視野をもち、国・地域社会の発展に寄与できるリーダー ○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒 ○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒 ○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
新学習指導要領・大学入試改革に対応して、平成 28 年度から継続して、主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、研修会の実施、外部研修会への派遣、相互授業参観等により、授業改善を進めている。30 年度までに、すべての教室に電子黒板を導入設置し、I C T機器を活用した授業を展開している。その結果、授業中積極的に発言・発表する生徒が増加している。 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善では、学力向上につなげる指導法の研究を引き続き進める必要がある。「わかる授業」を展開し、土曜特別講座、夏季特別講座、春季特別講座、平常課外、A C 活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって、進路指導における国公立大学への合格者数は 97 名でほぼ目標を達成できた。 27 年度より重点校として指定された「一人一人が輝く活力ある学校づくり」事業では、グローバルな視野を備え、国際社会や地域社会の発展に貢献する人材の育成を掲げた「紫西グローバルチャレンジ」事業を積極的に推進してきた。国内留学や海外語学研修を実施した結果、英会話に積極的な生徒が増加し、GTEC のスコアも向上してきた。 今年度は「令和 2 年度県立学校等チャレン	確かな学力の定着と進路指導の充実	①グローバル人財の育成を目指し、「令和 2 年度県立学校等チャレンジ・プロジェクト」強化校として、「館一グローバルチャレンジャー筑西と世界を結ぼう」事業を推進する。台湾への修学旅行、台湾・オーストラリアの高校・大学との姉妹校提携や連携協定を活用した文化交流・語学研修により、国際社会や地域社会で活躍できる生徒を育てる。 ②相互授業参観や職員研修会、附属中学校の授業参観、中高一貫校先進校視察、予備校等での授業研修を通じて、自ら学ぶ生徒の育成を目指し、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に取り組み、「思考力・判断力・表現力を伸ばす授業」を展開する。 ③日々の授業を大切にするとともに、土曜特別講座、夏季特別講座、春季特別講座、平常課外、A C 活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって学習意欲を喚起し、生徒一人一人の可能性を引き出す進路指導に努める。 ④国公立大学合格 100 名以上、難関国公立大学合格 20 名以上、難関私大合格 20 名以上を目指す。	A
	規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養	⑤学校内はもちろん、校外においても元気の挨拶を励行する。 ⑥自律の精神や自己抑制力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。 ⑦カウンセラーとの連携を充実させると共に、全教職員がカウンセリングマインドに立った指導を行い、心的理由での転退学者数をゼロにする。 ⑧基本的生活習慣の確立に努め、各学年皆勤者 100 名以上を目指す。 ⑨規範意識の高揚を図るとともに、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者ゼロを目指す。 ⑩場を清め、心を清める活動を推進し、清潔な学習環境で落ち着いた雰	A

別紙様式 2 (高)

ジ・プロジェクト」強化校の指定を受け、「館一グローバルチャレンジャー筑西と世界を結ぼうー」としてこれまでの事業を発展させる。国際社会や地域社会の課題を発見し、科学的視点から分析力・論理力・表現力を駆使し、主体的・創造的・協働的に課題解決に挑戦する資質や能力を育成することが目標である。 附属中学校の開校に伴い、全職員の共通理解のもと、中高一貫教育校のメリットを最大限生かすカリキュラムの策定を、高校と附属中学校が協働して進めていく。		特別活動の充実とコミュニケーション能力の向上	⑪キャリア・パスポートを活用し、特別活動の活性化を通して生徒相互の融和を図り、コミュニケーション能力を育て、自己肯定感を高めていく。 ⑫部活動は、学業との両立を図り、質の高い練習を通じて、全国大会など県外大会出場を目指す。（1年生の部活動加入率 90%以上を目指す。） ⑬学校行事の改善充実を図り、中高一貫校としての新たな伝統の継承に努める。	B		
		広報活動の推進と地域との連携	⑭ホームページを充実させるとともに、学校案内等を刷新し積極的な情報発信を行い、「社会に開かれた学校づくり」に努める。 ⑮附属中学校とともに学校説明会の充実を努め、広い地域の中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。 ⑯学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。 ⑰進路だよりや学年通信などの紙媒体、メール配信やホームページなどの電子媒体を活用するとともに、進路講演会・学年PTA・PTA支部学習会等あらゆる機会を活用して、生徒・保護者に進路や学習に関する情報を提供し、連携を深める。	A		
		いじめの未然防止と早期発見、早期解消の確立	⑱道徳教育や教育相談等を充実させ、いじめの未然防止と早期発見、早期解消に努める。	A		
		中高一貫教育校としての高校教育改革	⑲附属中学校と高校が有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。	B		
		働き方改革の実現	⑳業務の見直しを進め、削減できる事業を各校務部及び学年で協議し、学校全体として1つ以上の事業を削減する。	B		
		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
教科	国語	家庭学習の励行を推進する。	日常生活において自学自習の習慣を確立させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。課題に自主的に取り組ませる。 ③④	A	A	今年度はコロナウイルス感染防止のため、グループワークやディベートの授業を行うことが難しかった。実施可能になれば積極的に取り組み、主体的・対話的な学習を進めていきたい。
			定期テストや模擬試験の事後処理として、出来なかったところを確認し、また苦手分野を理解させ、今後の自学自習の目安を立てさせる。 ③④	A		
		進学に対応できる読解力・表現力の身につく授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワーク、ディベートを授業の中で積極的に取り入れる。 ②	B		
			年間計画に基づく計画的な授業を実践し、生徒に入試に必要な実力を付けさせるとともに、教養としての国語の力を高めさせる。 ③④	A		
			読書環境を整える。朝のH・R前の読書時間を学年全体の指導として確保したり、教材に合わせた図書紹介を行ったりするよう努める。 ③⑥	B		

別紙様式 2 (高)

			公開授業、職員研修会、予備校等での授業研修を通じて、教員側も授業内容や指導方法について研鑽を積み、授業改善に努める。 ②	A		
地歴・公民	わかりやすい授業、興味関心を喚起する授業を行うと共に新課程に対応した教科指導に努める	新聞、映像、副教材等を有効に活用し、わかりやすさを心がける。また、生徒の進路希望及び新課程に対応した授業を実践する。 ②③	A	B		・今年度はコロナ対応により科内での授業見学が一切実施できず評価Cとなったのが残念である。 ・一方ではオンライン授業が急速に普及した。 ・生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすための授業改善はさらに必要である。
		授業担当者がお互いに授業を見学し、研究協議などを行う。 ②	C			
		各種研究会に参加し、授業内容へのフィードバック・教科内における情報共有に努める。②	B			
		生徒の能動的な授業への参加を取り入れた学習法を工夫する。 ②③	A			
	論述問題にも対応する内容を盛り込む。	時事的内容を盛り込み、学習内容を身近なものになるように努める。 ②③	A			
		小論文や論述問題にも対応できるように努める。 ③④	B			
授業開始と終了の際のメリハリをつける。	生徒の授業準備などが速やかに行われるように指導する。生徒の理解度に合わせた授業を展開する。 ⑧	A				
数学	基礎学力の向上を図る。	授業の開始と終了時刻を厳守する。 ③⑩	B	B		・問題演習の時間の確保。 ・オンライン授業への対応。 ・共通テストの傾向の分析と対策。
		年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。 ③④	A			
		章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは、補習を実施する。③④	B			
		学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。 ③④	B			
	家庭学習習慣の定着に努める。 自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	課題に取り組ませ、家庭学習の習慣をつける。 ④	A			
		授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ③	B			
		学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。 ②③	A			
		学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。特にコンピュータを活用した授業を研究する。 ②	B			
理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業を提供する。	時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。 ②③	A	B		・授業の展開を工夫し実験の時間を確保したい。準備や片付けの人員確保に努め、コロナ禍での実施方法を検討していきたい。 ・共通テストの読解力を必要とする問題に対応しきれない生徒が多い。新課程も始まることから、新しい学力に対応するためにどのような準備が必要か、教科内でまとめておく必要がある。
		教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に効果的なコンピュータを活用した授業を展開する。 ②③	B			
		資料集を活用し、身近な自然現象に関連をもたせる。 ②③	A			
	自然現象に関する問題提起をし、理科的な思考や発想を身につけさせる。	生徒同士での話し合いやグループ活動などを活用して、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりを行う。 ②③	A			
		単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。 ②	B			
	進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	受験頻出問題を単元ごとに取り込み、演習時間を確保する。 ③④	A			
		理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。 ②	B			
	生徒個々の習熟度に応じた指	課外の実施、学習内容の深化のため適宜質問応答の時間を設ける。 ②④	A			

別紙様式 2 (高)

		導をする。	基礎力の身につけていない生徒に対し、個別指導等を実施する。③	B		
保健 体育		保健の教科書・ノートにそった授業を展開する。また、授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	単元目標にそった授業計画を毎時間立案出来るようにする。②③	A	B	・コロナ渦での体育授業ということで、従来とは違う形式での授業展開となった。次年度でも今年度で実践できたことを継承し、生徒の活動量を確保できるように工夫して行いたい。 ・保健では、コロナに関する内容も取りあげるなど、今話題になっている内容を随時取り上げ、生徒の生活に直結する授業を引き続き行っていきたい。
			資料や I C T 機器を活用し、グループ学習など主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実施する。①②③	B		
		現代社会の中で心身共に健康に生きる為の知識の習得に努める。	生涯を通じた健康作りの基礎を身につけさせる。②⑧⑬	A		
			保健ノートのまとめの問題を定期的に点検し、確認テストを行う。②	B		
		基礎体力の向上を図る。	年度を通じて、授業の始めに各学年とも補強運動や体づくり運動の時間を設ける。②⑥	B		
			ゲームの進め方を工夫し生徒の運動量を確保する。②	A		
		種目ごとの技術の向上を図り、スポーツの楽しさを味わい運動習慣の定着に努める。	各種目で経験者をグループ内に配置し、高い技術に触れる。②⑥ バランスを考えたグループを作り、全員が楽しめるゲームができるようにする。⑥⑪⑬	A A		
芸術		授業研究に取り組み、指導法の工夫・改善を図り、生徒が芸術についての学びを深められるようにする。	ゲームにおいて互いに審判を経験することで、ルールを覚え、各競技の楽しさを知る。⑥⑪⑬	B	A	・ICT を活かした、活動及び評価の充実。 ・進路希望の実現を目指す。 ・教科横断的な内容の授業の充実。 ・鑑賞教育の充実。 ・さまざまな社会情勢に応じた柔軟な授業対応。 ・中学生の授業研究。
			豊かな想像力や感受性を養うため、個別指導も念頭に置いた、個性を尊重する指導を行う。③⑩	A		
		さまざまな表現・鑑賞活動を通し、生涯を通じて芸術を愛好する生徒を育成する。	生徒が主体的に取り組める教材を精選し、グローバル社会で活躍していけるような芸術的素養を身に付けさせる。①②③④	A		
			さまざまな表現活動を実施しながら、コミュニケーション力を高め、仲間と共に協働的に活動できるグループワークを多く取り入れる。①②③⑥⑦⑬⑱	A		
		生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。	鑑賞活動等を通じ、地域の伝統芸能や芸術を体感し、芸術のよさや楽しさを感じさせることにより、深い学び・対話的学びを実現させる。①⑤⑥	A		
			芸術系大学の進路希望者に対して、実技等試験の対策を行い、進路希望の実現を目指す。①③④	B		
		環境整備に努める。	放課後等の時間を設けて、指導を徹底する。③④⑫	B		
英語		授業時間を大切にする。	表現活動に応じた、教室環境の整備に努める。⑩	A	A	・iPAD を活用した指導方法の研修の必要性。 ・授業に関する研究協議や授業の進度に関する情報共有がもっとできるとよかった。 ・生徒のパフォーマンステストの場をあまり設けられなか
		指導力の向上を図る。	チャイム着席を徹底し、授業時間を確保する。③	A		
			授業を公開し、授業内容・方法等について教科内で研究協議する。②	B		
		授業や家庭学習に主体的に取り組む意欲を育てる。	生徒がコミュニケーション能力を身につけられるよう、指導法を研究・工夫する。②③	B		
			音読やリスニングを多く取り入れ、学習内容の定着を図る。①②	A		
			英語で発表する場を与え、主体的に授業に取り組めるようにする。①②	B		
			提出物等も成績に加味し、学習に取り組む態度を向上させる。②③	A		
		生徒の学習状況を把握する。	ノート等を提出させ、生徒の家庭学習状況や理解度を把握する。③	A		

別紙様式 2 (高)

			小テスト等で学習の理解度を把握し、必要なら補習等を実施する。 ②④	A		った。 ・議論と連携を深めて一貫した指導体制づくりを進める必要がある。
		中高連携を深める。	指導法研修や授業公開を通して中高連携を深め、6年間を見通した効果的な指導体制作りを進める。 ②③④⑱	B		
	家庭	学習意欲を高める授業を展開する	実験・実習・体験学習等を多く取り入れた授業を展開する。 ②③	B	B	被服室・調理室の環境を整備し、各種実験・実習やホームプロジェクト学習の充実を図りたい。
			異文化についての教材を取り入れ、興味関心を喚起する。 ①⑬	B		
		思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。	四観点を意識したワークシートを作成し、思考力・判断力・表現力を把握する。 ②③	A		
			家庭科に関する新聞切り抜き学習を実施し、小論文やホームプロジェクト学習（課題解決型学習）に繋げる。また、実験・実習の充実を図る。 ⑥⑱	A		
	情報	環境整備に努める。	学習環境を整え、安全な実験・実習を行う。 ⑩	B	B	・Google Classroom やコンピュータ室の画面共有機能を活用し、効果的な座学や実習に繋がったが、さらに生徒 1 人 1 人を観察し授業を進めることが必要と感じた。 ・生徒によるプレゼンテーション活動の重要性が増す中で生徒は著作権・引用の意識が低く、優先すべき課題であると感じた。
		座学を通じて、情報に関する科学的な思考力、判断力を伸ばす。	情報社会の現状や仕組みについての知識を習得させ、確認する。 ①	A		
			グループワークや話し合いの時間を積極的に設け、主体的、対話的で深い学びの実現を図る。 ②⑥	B		
		実習を通じて、情報技術を活用する基本的な技能と表現力の向上を図る。	実習は内容ごとに提出物を課し、達成度を確認して指導に活かす。 ①②	B		
			様々な情報を分析・整理し、プレゼンテーションする実習を通じて、思考力・判断力・表現力を育成する。 ①②	B		
		正しい情報リテラシーを身につけさせる。	時事や実例を踏まえた情報モラルの説明を行い、知識・理解をレポート等により確認する。 ①⑥⑨	C		
教務部		特色ある教育課程の編成及び運営に努める。	各学年・各教科・各校務部との連絡調整を行い、将来を見据えた、より良い教育課程や時間割の編成や運営に努める。 ①②	A	A	・コロナの影響で、今年度はオンラインによる授業やホームルームが導入された。今後は、ICT活用のノウハウを教員間で共有する仕組み作りが必要である。 ・「チーム学校」の考えのもと、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力の醸成が必要である。 ・観点別学習状況評価が、生徒の学習実態を反映するよう
		授業時間の確保に努める。	計画的な運用により現行のカセットシステムの利点を最大限に活かし、授業時間の偏りを減らすための曜日変更や行事の調整を行い、バランスのとれた学習進度を維持する。 ③	A		
			授業変更を管理し、適切な時間割を立案する。授業の開始と終了時刻を厳守し、1 時間の授業にこだわることで、生徒・職員ともに「授業を大切にする」意識の徹底を図る。 ③	A		
		各校務部・各学年・各教科などとの連携を密にし、円滑な学校運営を図る。	各校務部・各学年・各教科などとの連絡を密にし、各行事の日程や内容などの情報収集に努め、その円滑な運営や改善を図る。縦割り業務を見直し、働き方改革につなげる。 ⑪⑳	B		
		定期考査などの円滑な運営を図る。	定期考査・到達度テストなどの企画立案、時間割の作成とともに、校務支援システムを使用し、円滑な運営に努める。各教科・学年からの要望も取り入れ、結果が効果的に生徒に還元され、授業で培った力がより正しく評価されるように、テストの在り方や内容を十分検討していく。 ③	A		

別紙様式 2 (高)

		観点別学習状況評価について理解を深め、評価方法を研究する。大学入学共通テストに関する情報収集、共有に努め、授業への反映を図る。 ②③	B		に更に工夫する。 ・近隣中学校や地域へ、学校の取り組みを正確に発信し、理解と信頼を得られるように工夫する。 ・年間計画の中で曜日振替や特別時間割の調整をするなど、授業時間数のバランスの確保に留意する。
	生徒の進路希望実現のための情報共有と活用できる環境を整備する。	学習進路部と連携して、大学情報等のデータ更新などのサポートを心がけ、生徒の進路計画を立てやすくする。 ④	A		
	I C T環境を整備し、校務の効率化を図る。	公文書等の処理システムの円滑な運用をサポートする。また、朝会等の連絡事項の記録と公開を徹底し、情報の共有を図る。さらに、ホームページ及び館一メールを通じて、行事連絡や非常時の対応を迅速に伝えられるようにする。 ⑭⑳	A		
	個人情報および構内情報システムのセキュリティを確保する。	ネットワークに関わる情報の提供に努め、教員間の情報格差をなくす。 ⑳	B		
		外部記録媒体の管理をする。 ⑳	A		
		成績処理用にクローズされた校内LANを併せて整備し、管理する。 ⑳	A		
		校内LANのセキュリティ管理をする。サーバー等を整備し、個人データの管理を徹底する。 ⑳	A		
生活部	心の教育の充実に努める。	挨拶の励行とマナーアップの推進に努める。特に挨拶については、毎月の生活目標を示したプリントを教室掲示し、さわやかマナーアップ週間の登校指導と連動させ継続的に指導していく。 ⑤⑥	A	A	・新型コロナの影響で、当初予定していた行事等が中止になってしまったものもあったが、スマホ・薬物乱用・交通安全の講演は予定通り行うことが出来た。 ・昨年度も課題として取り上げた、スマホの利用については、今年度も使用時間の減少には至らなかった。学習進路部と連携して引き続き指導していきたい。 ・服装については、新型コロナウイルス感染症対策として、文科省からの指示もあり、ジャージ登校や私服登校を認めた。臨機応変に対応できたと思う。 ・3年生の皆勤者が109名、3年間皆勤者が60名であっ
		問題行動の予防や早期対応に努める。いじめなどの実態把握をするため、定期的にアンケートを実施する。 ⑥⑬	B		
		スクールカウンセラーと連携し教育相談の充実に努める。教職員対象のカウンセリング研修会を実施し、全ての教職員で心の指導にあたる体制づくりをする。また、カウンセリング・サポート係が中心となって、心の問題を抱える生徒に早期に対応する。 ⑥⑦⑬	A		
	服装をきちんとさせるなど、規範意識の向上に努める。校則違反者0を目指す。	学年・担任・授業担当者による指導や呼びかけを徹底する。毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導、集会時における生徒への呼びかけを通して、服装をきちんと着用させ、規範意識の向上に努める。 ⑤⑥⑨	A		
	基本的生活習慣の確立に努める。各学年皆勤者100名以上を目指す。	欠席・遅刻生徒を減らすために、各学年、担任と協力体制をとって指導にあたる。遅刻の多い生徒に対しては、生活部、学年と協力体制をとって継続的に指導していく。 ⑧⑩	A		
		毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導などにおいても、時間の厳守を呼びかけ、遅刻生徒の減少に努める。 ⑤⑧	A		
	安全で有意義な学校生活の実現に努める。	登校指導や自転車・バイク点検の際に、交通マナーアップなどの安全指導を実施する。 ⑥⑨	B		
		教室を離れる際は、貴重品袋の利用を呼びかける。また、学年の協力のもと教室の施錠や自転車置き場の巡回も必要に応じて実施する。 ⑨⑩	A		
		交通安全委員を中心にPTA・警察・地域社会と連携しながら交通安全キャンペーンやバイク講習会を実施する。 ⑤⑨⑬	B		

別紙様式 2 (高)

	ケータイ・ネットの安全利用の充実に努める。	ケータイ・ネットの安全利用を呼びかける。また、集会時においても危険性を訴えていく。スマホ利用に関する実態調査の結果を基に、睡眠時間・学習時間確保のため、学習進路部と連携し使い方について指導していく。⑥⑨	B		た。基本的な生活習慣が確立されている生徒は多いと思われる。引き続き登校指導を行っていきたい。
	健康教育を推進し、心身ともに健康に生きるための知識と能力を育て、健康に対する意識の高揚を図る。	風邪やインフルエンザなどの感染症の予防や啓発に努める。⑩	A		
		性に関する講演会・薬物乱用防止教室を、外部講師を招聘し1年次に実施する。⑬	A		
	健康で安全な学校環境の整備及び美化に努める。	月1回のペースで、生活部職員が校内を巡視し、清掃用具の破損や不足を確認して、清掃が滞りなく行えるように環境を整備する。⑩	A		
		避難訓練を通して、非常時にも冷静沈着な行動を取れるようにする。⑩⑬	B		
		クリーンアップ作戦を通して、地域の美化対策に協力し、また清潔な環境整備の重要性も指導する。⑩⑬	B		
		毎日の清掃活動を指導し、清潔な学習環境整備に努める。⑩	A		
		保健室の適正使用を指導する。⑦⑧	A		
特活部	特別活動を通して、豊かな人間性を養う。	学業との両立を保ちつつ、部活動の活性化を図り、部活動参加率 90%以上と県外大会出場を目標に充実した活動を目指す。⑪⑫	B	B	・教員間の連携。 ・コロナ渦で実施出来なかった行事を ICT の利用により、どのように実施出来るかについて検討する。 ・附属中学校の3学年成立に向けた環境作り。 ・中高一貫での連携した行事運営。(中高の関わりが持てる環境作り) ・文化祭に向けた執行部の積極的な活動への支援。 ・キャリア・パスポートについては、学年ごとに購入した手帳で代用しているので、学校で統一したものが利用できるか検討する。
		芸術鑑賞会において本物の舞台芸術を体験させ、心身の充実を図る。⑬	B		
	中学・高校の連携した行事の改善を図る。	附属中学校での特別活動の内容を検証し、中高一貫を含めた充実した活動を目指す。⑬⑭	B		
	学校行事を充実させる。	生徒会と執行部が中心となり、生徒の自主的かつ充実した活動を通して生徒一人一人のコミュニケーション能力の育成と、より良い人間関係を構築する。⑪	A		
	キャリア教育の一環としての特別活動を位置づける。	キャリア・パスポートを活用し、各行事や部活動などにおいて、生徒一人一人の振り返りを通して、人生について考える機会を設ける。⑪	B		
学習進路部	生徒の学力向上を支援する。	生徒の実態に応じて課題の精選を行い、ホワイトボードを利用し課題の可視化を行う。③④	B	B	・感染症対策による制限にもかかわらず、生徒の学力向上と進路実現に努めて頂いた先生方に感謝申し上げます。
		定期テスト・外部模試・自学自習時間調査等の結果を管理しデータの有効活用を図る。③④	B		
		AC活動を全生徒に開くとともに、課外(通常・夏季)・土曜特別講座を計画し、生徒の学力の向上を支援する。①③④	A		

別紙様式 2 (高)

	教員の授業力及び進路指導力を高める。	各学年で「学習アドバイス」を発行するとともに、生徒の自学自習力の向上を図る。①③④	A		・校内授業公開が簡略化した形式でしか実施できなかったのが残念である。 ・通常の対面授業とオンライン授業の両方を実施できた。生徒の学力向上につながるような授業構成を今後も検討する必要がある。 ・諸調査の実施や結果集計に I C T 機器を使い教員の負担軽減をはかってもいいのではないか。 ・中高 6 年一貫を視野に入れた進路指導計画を作る必要がある。
		定期考査前指導を組織的にを行い、欠点者ゼロを目指す。②③	B		
		校内授業公開、授業アンケートを行うとともに、長期休業中の予備校による教員研修を奨励し、新しい学力観に基づく授業改善に資する。②③④	B		
		進路指導に関する研究会等に積極的に参加し、成果を他の教員に還元する。②③	B		
	確かな学力に基づいた進路実現を支援する。	卒業学年による進路報告会を開き、3 年間を見据えた進路指導を行う。③④	A		
		進路相談を実施し、生徒に適切な進路情報を提供するとともに、生徒が進路情報を身近に閲覧できる環境の整備に努める。③⑦⑧	A		
		外部模試を計画的に実施し、その結果及び動向を把握し、生徒の進路選択に資する。③④	A		
	キャリア教育の充実を図る。	難関国公立大 20 名以上を含む国公立大 100 名以上、難関私大 (G M A R C H 以上) 20 名以上の合格を目指す進路指導体制を整える。①③④	B		
		生徒の進路希望を把握し、各学年に適切な進路情報を提供し、進路通信や進路の手引きの発行を通して、生徒や保護者にも進路情報を効果的に発信する。③④⑦	A		
		各学年で進路行事 (進路講演会・紫西プレカレッジ・企業見学・大学見学会) を計画的に行うことで、学問への興味関心を喚起し、進学への意識を高める。③⑦	B		
		医学部進学支援を行う。③④	B		
	図書館の環境を整え、資料・情報を収集し、提供する。	中学生向けの図書の充実を図り、展示・装飾・配置レイアウトを工夫する。③⑬⑱	A		
		探究的な学習につなげられるような資料・情報を収集し、提供する。③⑬⑰	B		
		生徒主体の図書委員会活動を行う。③⑥	B		
	適切な役割分担	各係の連携を図るとともに、各係の仕事内容を吟味・整理し、緊急の事態や新しい課題に対応できる態勢をつくる。⑨⑲	B		
渉外部	PTA 諸行事への保護者の参加率を高める。	PTA 総会及び支部総会において、新型コロナウイルス感染予防に配慮する。P T A 活動の内容を広報紙等を通して啓発する。⑭⑱⑰	A	B	新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら、P T A 活動の充実を検討する。
	PTA の活動を充実させ、活動に対する保護者の意識高揚を図る。	校内外で開催される各種 P T A 会合に積極的に参加し、多くの情報や資料を収集するとともに、その研修成果を活かすように努める。⑱⑰	C		
	学校と家庭の連携を図り、協力体制を深め、生徒の学校生活を充実したものにする。	充実した学習環境を築くため、保護者・職員からの要望や意見を集約し、その実現に向けた支援を行う。⑱⑰	B		
		保護者と職員間の情報交換を行い、共通理解の下に、生徒の生活上の変化や問題点を把握し、指導の協力体制を確立する。⑱⑰	B		
企画部	「総合的な探究の時間」を通し学びに向かう力・人間性を涵養する。	課題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成する。①	A	A	・「総合的な探究の時間」は先生方の協力のもと基本的な形は整えることができた。また、チャレンジ・プロジェクトと
		課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ・表現など探究の過程で、自己の在り方生き方を考えさせる。①②	A		
	I C T 教育を促進させ、情報活	各教室のパソコンの定期的な点検整備を行い、ソフトウェア・ハードウェアの更新を進める。	A		

別紙様式 2 (高)

	用能力を育成する。	電子黒板等 I C T 機器の整備を図る。①②		の連携も進めることができ、他機関との関係も結ぶことができた。しかし、まだ始動段階で、今後さらに改善して本校の教育活動の中心を担えるようなものにしていきたい。 ・HP の改善や学校説明会の新しい試みを通して本校の魅力を発信することができた。しかし、まだ細部には行き届かないところがあるので、次年度もさらに改善していきたい。
		授業の中で積極的に I C T 機器を活用し多様な学習活動の一助とする。①	A	
	館一グローバルチャレンジの事業を充実させ、新たな魅力の創出を図る。	国際交流事業を継続し、国際感覚をもったトップラーナーを育成する。①	B	
		筑西市・地域企業・小中学校と連携を図り、地域社会に貢献できるトップラーナーを育成する。①	A	
	開かれた学校づくりを目指し、教育活動の公表に努め、保護者及び地域とのコミュニケーションの向上を図る。	メール利用による学校情報発信のための環境整備と P R を図り、館一メールの登録・更新を推進する。直感的でわかりやすい H P の構成やデザインを検討するとともに、本校の教育活動を外部に発信するツールとして積極的に H P の更新を図っていく。⑭⑮	A	
学校案内、シラバス、様々なパンフレットの作成を通し、目指す学校像等を地域や小中学校に広く発信していく。⑭⑮		B		
1 学年	学習習慣の確立と基礎学力の育成	授業に集中して取り組ませ、予習・授業・復習の学習サイクルを確立させる。③④	B	B ・手帳の提出状況の悪化が目立つので対策を講じる必要がある。 ・朝読の時間に自立した活動ができていない生徒への指導が必要である。 ・中高で一貫した生活指導が必要である。 ・新聞の活用法を検討する必要がある。 ・コロナで学年企画が少なかった。 ・成績上位者へのアプローチが少なかった。
		手帳を使った自己管理を指導することで、家庭学習を習慣化させ、1 日 3 時間以上の学習時間を確保させる。③④⑧	B	
		教員は、A L を取り入れた教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。①②③④	B	
	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行に努め、遅刻・早退・無断欠席などの指導を徹底する。⑤⑧⑨	B	
		服装・頭髪の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。⑥⑨	B	
		清掃をきちんと行わせて、学習環境を整えさせる。⑥⑩	A	
		早めに登校し、始業までの時間を学習や読書をするので、朝から落ち着いて過ごせる環境をつくらせる。⑥⑦⑧⑩	B	
	進路目標の決定	探究活動、行事（紫西プレカレッジ・企業訪問等）、個別面談などを通して、適正文理選択及び進路選択につなげる。①③	B	
		A C 活動などを活用することによって、高い進路目標を設定し、挑戦させる、①③④	B	
		新聞を読むことを促し、社会全般に目を向けるように促し、多くの社会問題に興味を持たせる。①④	C	
	コミュニケーション能力の育成	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション能力の向上を図れるように指導する。①⑪⑫⑬	B	
		生徒が生き生きと活動できるような学年行事を企画、実行していく。①⑬	B	
	いじめや不登校生徒の早期対応	定期的な調査より、いじめを早期発見し、早期解消に努める。⑱	A	
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。⑦⑱	A	
		道徳教育や学級活動を通して、他者を尊重する態度を養う。⑥⑱	B	

別紙様式 2 (高)

2 学年	学習習慣の改善と基礎学力の向上	授業に集中して取り組ませるとともに、予習・授業・復習を柱とした学習方法とその習慣を身につける。 ③④	A	B	・3年0学期のスタートを意識させ、受験を意識した勉強を継続的にできるようにする。 ・コロナ対策をきちんとできるような新しい生活様式を定着させる。 ・文化祭を最高学年とし主体的に取り組み成功させたい。 ・コロナ禍ではあるが部活動をやり切らせたい。
		自己管理を手帳により行うことを指導し、授業以外の自学の習慣化を図り、1日4時間以上の自学時間をつくる。 ③④⑧	C		
		教員は、ALを取り入れた教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。 ①②③④	A		
	進路目標の決定	HRや探究学習、行事（大学見学・進路講演会等）などを通して、具体的な進路を決定する。 ①③④	B		
		AC活動などを活用することによって、生徒一人一人に応じた適切な指導を行い、高い進路目標への挑戦を促す。 ①③④	B		
		新聞を読むことを促し、社会全般に目を向けて、多くの社会問題に興味をもつようにする。 ①④	C		
	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行し、遅刻・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	A		
		服装・頭髪の指導を徹底し、制服を正しく着用する。 ⑥⑧⑨	A		
		清掃をきちんと行い、学習環境を整える。 ⑥⑩	A		
		始業までの時間を学習や読書をすることで、落ち着いて過ごせる環境をつくる。⑥⑦⑧⑩	A		
	コミュニケーション能力の向上	部活動や委員会活動、学校行事等に積極的に参加し、学校の中堅としての役割を意識し、コミュニケーション能力の向上を図る。 ①⑪⑫⑬	A		
		台湾修学旅行を通して、広い視野で物事を見ることを学び、地域社会において海外との架け橋になる意識をもつ。 ①	A		
	いじめや不登校の早期対応	定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑬	A		
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑬	A		
		道徳教育を通して、他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑬	A		
3 学年	学習習慣の確立と基礎学力の定着	予習復習を徹底させ、授業に集中して取り組ませる。 ③④	B	B	・新しい生活様式の中で、生徒の自主的な学習をいかに促していくか。休校中に有効であった Classroom のより積極的な利用など、有事にも対応できる体制を作る必要がある。 ・多様な大学入試に対応するために、3学年だけでなく全教員間での情報共有をより密接にする必要がある。
		手帳を使って時間管理の徹底を図り、1日平均5時間以上の学習時間を確保させる。③④⑧	B		
		朝学習の習慣化と自主化を実現させる。 ③⑧⑩	B		
		夜7時まで学校を開放し、時習館・紫西スタディールームの使用を促すことで、学習時間の固定化を図る。 ③	A		
		教員は、ALを取り入れた教授法・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。 ①②③④	A		
	進路目標の達成	HRや総合学習、進路行事などを通して、具体的な進路を決定させる。 ①③④	A		
		AC活動の活用、多様な課外の実施、小論文指導等を通して、生徒一人一人に応じた進路指導を行い、高い目標への挑戦を続けさせる。 ③④	B		

別紙様式 2 (高)

		個別面談を通して、生徒の進路希望及び学習状況を把握する。③④	A		
		教員間での情報共有に努め、志望校検討会を複数回行い、変化する大学入試に対応できる体制を作る。①②③④	B		
	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行させ、遅刻・無断欠席等の指導を徹底する。⑤⑧⑨	B		
		服装・頭髪等の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。⑨	B		
		清掃をきちんと行わせて、学習環境を整える。⑥⑩	A		
		朝の時間に学習に取り組ませ、その習慣化と自主化を図る。③⑥⑧⑩	B		
	コミュニケーション能力とリーダーシップ能力の向上	部活動・委員会活動・学校行事等に積極的に参加させ、最上級生としての自覚を持った行動をするように指導する。⑪⑫⑬	B		
		HR活動等において、他者と積極的に関わり、協力することの大切さを理解させる。⑪	A		
	いじめや不登校生徒の早期対応	定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。⑬	A		
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。⑦⑬	A		

※ 評価規準：A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する